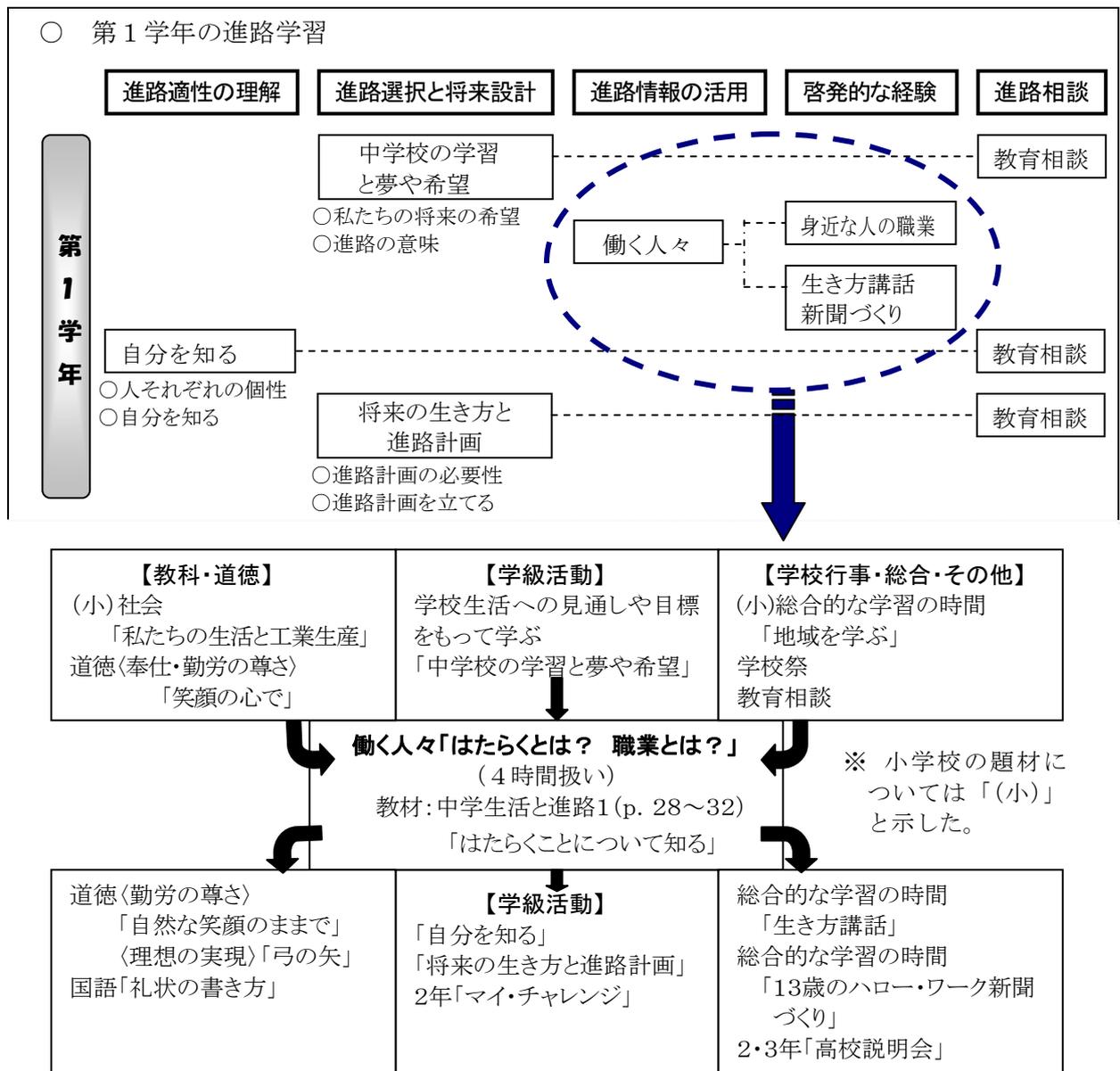


POINT 2 目標や評価の観点を明確にして系統的な進路学習を展開する

キャリア教育では、社会や経済の仕組みについての現実的理解を図ることが求められています。そのためには、職業生活や産業社会に関する基礎的な知識や理解が重視されます。体験から学ぶだけでなく、系統的に学習することも必要です。すでに、中学校、高校のいずれにおいても、題材の系統や年間計画に基づいて進路学習が展開されています。今後は、単元や題材の系統性を重視するとともに、目標や評価の観点を明確にして適切なガイダンスと個別指導が行われるようにします。

■ 題材の系統



事例紹介

ここでは、中学校と高校の進路学習の取組を例にして、系統的な学習プログラムを構築する考え方を説明します。

事例 10〔中学校〕目標や評価の観点から明確にした進路学習を実践する

この中学校では、キャリア教育の視点を生かして活動のねらいを検討し、生徒の自己評価を促すように、ワークシートの改善に取り組んでいます。

■ 学級活動を柱とした学習プログラムの構想(題材の指導計画)について

1 単元名

「働くとは？ 職業とは？」(1学年)

2 単元の系統図(省略)

従来の目標と対比することが大切である。

育成すべき意欲や能力・態度を幅広くとらえる必要があるが、指導に力点を置く項目を明らかにする必要がある。

3 単元目標

本単元での目標	キャリア教育の視点からの目標(◎重要 ○やや重要)
1 職業や働くことに興味をもち、これについて学ぶ意欲をもつ。	人間関係能力 (自他の理解能力、コミュニケーション能力) ○自己の職業について、興味や関心をもつ。 ○インタビューを通して、大人とのコミュニケーション・スキルの基礎を習得する。
2 自分の関心のある職業を認識し、さらに深く知ることにより意欲をもつ。	情報活用能力 (情報収集・探索能力、職業理解能力) ◎生き方や進路に関する情報を、インタビューを通して、調査、収集できる。 ◎勤労の意義や、働く人の様々な思いが分かる。
3 働く人の具体的な姿を通じて職業の多様な面を知り、関心をもつ。	○職業や仕事のあらましを理解する。
4 広く生き方について多様な観点をもつとともに、勤労観や職業観を育む。	将来設計能力 (役割把握・認識能力) ○職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。

従来の目標の抽象的な部分を、具体化する。

4 単元計画

時間	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第1時間	単元「いろいろな職業」 1 テーマの意識化 ・「働く」とはどのようなことかを事前のアンケートをもとに発表する。 ・「働くこと、職業について」考えようとする。	・導入部分であるので、生徒のもつ多様な考えを肯定的に受け止め、引き出すようにする。	人間関係形成能力 (コミュニケーション能力) ・友達と協力して、学習に取り組むことができる。	学習観察 発表
	2 職業の多様な面について考える。 ・進路ノートを見て、ワークシートに分類する。	・作業を通して、様々な職業の存在や、職業の多様な面をとらえさせる。	情報活用能力 (職業理解能力) ・職業や仕事のあらましを理解する。	学習観察 ワークシート

単元(題材)の目標に示していないが、グループワークを展開する際の評価の観点として設定してある。

5 事前及び事後の指導のポイント

- (1) 事前のアンケート（「働くこと」）をもとに、生徒の職業に対する理解や見方などについて把握します。
- (2) 3学期に将来設計シートを作成する際に、今回のワークシートを参考にさせます。
- (3) 身近な働く人々に対するインタビューを通して、第2学年のマイ・チャレンジ活動に必要な、大人とのコミュニケーション・スキルの基礎を身に付けさせます。

従来の題材の系統だけでなく、能力や態度の育成の視点から事前・事後の指導をとらえる。

■ 体験的な活動(インタビュー)のワークシート

身近な人の職業調べ調査用紙 (平成18年1月実施)

- 1 答えていただいた方の名前【 ○○ ○○さん 】
自分との関係 【 おば 】
- 2 働いている人に質問し、答えていただいたことを記録しよう。
☆ インタビューの前と後に、「よろしくお願いします。」「ありがとうございました。」とあいさつしよう。

一方的な聞き取りにならないように自分の紹介も加えるようにさせる。

質問の内容	答えていただいたことの記録
①職業名と、仕事の内容や特色	薬剤師、保健薬局の調剤
②この仕事をやろうと思ったのはなぜですか。	医療の仕事をしたかったから。
③この仕事をやっていて一番つらかったことは何ですか。	会社を休めない。責任が重い。

質問例は提示してあるが、自分で設定できるようにしてある。

3 調査を終えての感想

薬剤師という仕事は具体的によく分からなかったが、お話を聞いてよく分かった。
「薬」を扱う責任の重い仕事であることが分かった。

「A」になるようにするためには、どんな質問をするとよいか考えさせる。

4 調査を振り返っての感想

- (1) 自分から進んで情報が集められましたか。 A B
- (2) 職業や生き方についての情報の集め方が分かりましたか。 A B
- (3) 聞いたことはわかりやすく記録できましたか。 A B C
- (4) 聞いた人の職業の内容について分かりましたか。 A B C
- (5) 聞いた人の仕事や生き方に対する考え方が分かりましたか。 A B C

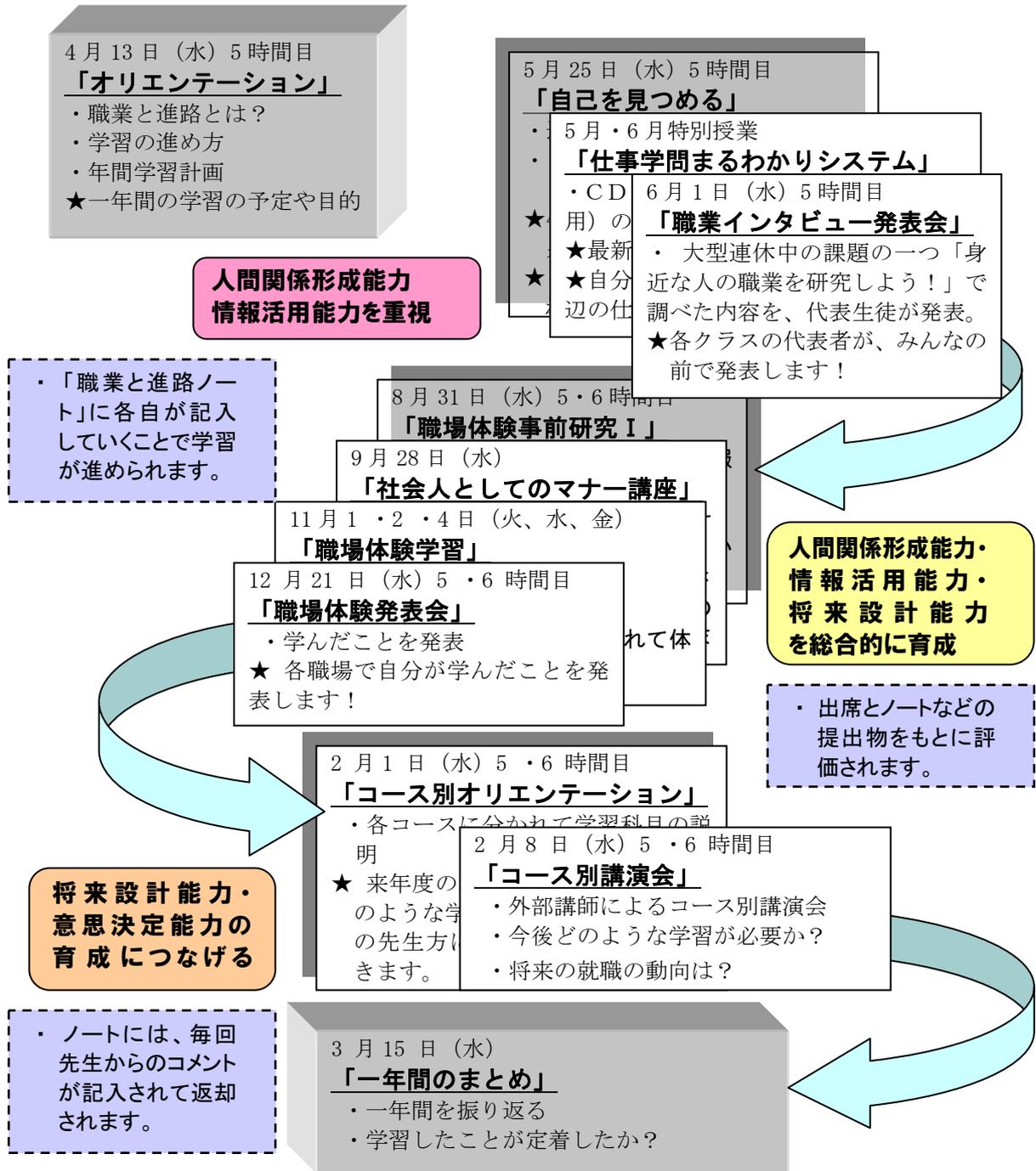
質問例

・その仕事を選んだ(決めた)理由 ・その仕事につくために必要な資格や免許、それを取得する方法 ・その仕事のよいところ、生きがい ・その仕事につらいところ、たいへんな点 ・その職業を希望する中学生へのアドバイス

事例 11〔高等学校〕総合的な学習の時間で進路学習を展開する

この高校では、第1学年の総合的な学習の時間を、進路について考察する活動を中心として展開しています。第2学年以降のコース選択につながるように系統的な進路学習となっています。

■ 総合的な学習の時間における系統的な進路学習の展開例



進路ノートを用いて、教科などと同様に評価を重視した指導を行っています。また、インタビューやインターンシップなど、体験的な活動を取り入れた系統的・総合的な学習プログラムを実践しています。

■ 学習の成果はポートフォリオとして活用する

進路説明会、講話、体験的な活動などの多様なプログラムを設定しても、児童生徒一人一人の受け止め方は異なります。このようなガイダンスの機能を高めるためには、諸活動を通して児童生徒の考え方や態度がどのように変容したのか、的確に把握する必要があります。

この学校では、進路ノートの記事内容を評価して、前後のガイダンスと関連付けたり、個別のフォローを行ったりしています。また、ノートに記入した内容はポートフォリオとして、学習の振り返りや定着を促すことに役立てています。

[進路ノートの記述例]

○ **学習のテーマ** 進路の学習に関するオリエンテーション

○ **学習して分かったこと・感じたこと**

私は高校に入学してから「不安」や「焦り」を強く感じていました。部活に入りたくてこの学校を選んだものの、両立に悩み、早く自分に合った自主学習の方法を見付けなければと焦っていました。

今日の先生の話聞いて、自分の進路について、先生方が一生懸命協力してくれるのだと分かって安心しました。厳しい口調での話も私たちに後悔してほしくないからだと感じました。「努力して入る学校に行ってください」という先生の言葉を大切にして、3年間努力したいと思いました。

私の将来の夢は、保育士か看護師になることです。そのための具体的な進学先は決まっていません。この後、夢は変わるかもしれませんが、とにかく勉強して選択肢を広くもつことができるようにしたいと思います。

○ **疑問点や調べてみたいこと**

国立(公立)と私立ではどのくらい授業料などに差があるのですか。

(教師のコメント)

5/11の職業と進路の授業で詳しく説明しますね。

(教師のコメント)

自分の気持ちをこうして表現できることはとても素晴らしいことです。

高校生活に対する不安や焦りは誰でも持っているものです。それを自分なりにどう処理していくかが成功の鍵となると思います。ここに書いたように、まず一生懸命やったという充実感を得ることはないでしょうか。時にはリラックスしながら努力を続けてください。

将来設計能力や意思決定能力の支援に力点を置いています。

■ **個別のフォローのポイント**

- ・情報提供は、できるだけガイダンスの場で収集したり、主体的に調べ学習で得たりするように促す。
- ・相談や個別のフォローが必要な内容を峻別する。

事例から学ぶこと

① 従来の進路指導の目標をキャリア教育の視点で見直す。

従来の進路指導の計画をキャリア教育の指導計画に移行する場合、従来の目標との違いを十分に検討することが大切です。

② 活動の成果はポートフォリオにまとめる。

キャリアは経験の積み重ねによって形成されるものです。活動を振り返り、継続して指導できるように、活動の成果をまとめたノートやワークシートは、ポートフォリオとして活用することが大切です。

解説7 キャリア教育の視点を生かして単元の指導計画を作成するポイント

単元や題材の指導計画の書式は、特に定まっていませんので、各教科や総合的な学習の時間などの指導計画に準じて作成することになります。

それぞれの教科及び領域ごとに作成する場合がありますし、いくつかの教科、領域の活動にまたがる学習プログラムのスタイルも考えられます。現在は、研究開発の段階であることから、数年間をかけて書式なども更新しながら整備していくことになります。アメリカなどの例に見られるように、包括的な発達段階に応じたガイダンスプログラムを構築するには、長期的な学校経営上の取組が必要です。

■ 単元や題材の指導計画検討の手順

- (1) 一つの学習プログラムとしてまとめる場合には、まず、柱となる領域や教科の指導計画をもとにして作成します。中学校や高校の場合には、主に特別活動や総合的な学習の時間に位置付けられる活動が柱となる例が多いようです。
- (2) 単元あるいは題材の目標を設定する場合、現在の目標をキャリア教育の視点でとらえ直します。キャリア教育の視点で新たに目標を設定し直す方法と、従来の目標はそのまま、新たに目標を追加する方法とがあります。
- (3) 指導計画には様々な目標や評価の項目を設定しますが、どの程度具体的なレベルで設定することが適切であるかは、実際の指導や評価の場面を想定しながら検討して決めます。
- (4) キャリア教育の評価では、児童生徒一人一人のキャリア発達の状況を的確にとらえ、学習の成果をポートフォリオなどにまとめて生徒に自己評価させるようにします。このためのワークシートやノートの活用は、単元の指導計画にきちんと位置付けます。また、これらの資料は、評価だけでなく、カウンセリングにも活用します。

■ 単元や題材の指導計画（書式例示2）

次の例は、同時期に展開が予定されている各教科及び領域の学習内容を、単独あるいは一つの学習プログラムとしてまとめる際の書式です。

<p>1 キャリア教育の単元名（題材名） 「・・・」（○学年）</p> <p>2 単元設定の理由 （略）</p> <p>3 キャリア教育の目標</p> <table border="1"> <tr> <td>目標（キャリア教育に関連の深い目標） (例) ○国語 ・相手や場に応じて、相手の意図をくみ取り、自分の意志や意見を適切に伝えようとする。 【 関心、意欲、態度 】 ○総合的な学習の時間 ○特別活動(学級活動)</td> <td>キャリア教育の視点からの目標 (例) コミュニケーション能力 ・</td> </tr> </table>						目標（キャリア教育に関連の深い目標） (例) ○国語 ・相手や場に応じて、相手の意図をくみ取り、自分の意志や意見を適切に伝えようとする。 【 関心、意欲、態度 】 ○総合的な学習の時間 ○特別活動(学級活動)	キャリア教育の視点からの目標 (例) コミュニケーション能力 ・																
目標（キャリア教育に関連の深い目標） (例) ○国語 ・相手や場に応じて、相手の意図をくみ取り、自分の意志や意見を適切に伝えようとする。 【 関心、意欲、態度 】 ○総合的な学習の時間 ○特別活動(学級活動)	キャリア教育の視点からの目標 (例) コミュニケーション能力 ・																						
<p>4 単元計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>次程</th> <th>教科及び領域</th> <th>学習活動</th> <th>指導と支援 (指導上の留意点)</th> <th>キャリア教育で育む諸能力 または評価の視点</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※ 単独の教科、領域の場合、省略する。</td> <td>単元(題材)または学習内容「・・・」</td> <td></td> <td></td> <td>・発表メモ (原稿、他の班の発表を聞き取ったメモ)</td> </tr> </tbody> </table>						次程	教科及び領域	学習活動	指導と支援 (指導上の留意点)	キャリア教育で育む諸能力 または評価の視点	評価方法	1	※ 単独の教科、領域の場合、省略する。	単元(題材)または学習内容「・・・」			・発表メモ (原稿、他の班の発表を聞き取ったメモ)						
次程	教科及び領域	学習活動	指導と支援 (指導上の留意点)	キャリア教育で育む諸能力 または評価の視点	評価方法																		
1	※ 単独の教科、領域の場合、省略する。	単元(題材)または学習内容「・・・」			・発表メモ (原稿、他の班の発表を聞き取ったメモ)																		
<p>5 キャリア教育における具体的な評価項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>次程</th> <th>学習事項及び評価項目の説明</th> <th>人間関係形成能力</th> <th>情報活用能力</th> <th>将来設計能力</th> <th>意思決定能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(1) いろいろな職業 ・○○・・・</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(2) 身近な人の職業</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						次程	学習事項及び評価項目の説明	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力	1	(1) いろいろな職業 ・○○・・・		◎			2	(2) 身近な人の職業	○	◎		
次程	学習事項及び評価項目の説明	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力																		
1	(1) いろいろな職業 ・○○・・・		◎																				
2	(2) 身近な人の職業	○	◎																				

キャリア教育で育む諸能力のマトリックスに示した項目をもとに設定する。

具体例を示して、評価に活かしやすい項目を設定する。

単元計画に評価項目に示した場合、評価項目を別に示さなくてもよい。